専大スポーツ
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.475

専大スポーツ編集部公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
X @sensuponow
Instagram sensuponow

優勝 平口

55kg未満級

賞状を手に笑顔の平口

全国女子相撲選抜ひめじ大会＝6月14日、兵庫県・網干南公園相撲場

平口幸芽（経営1・静岡商業高）が一般の部55kg未満級に出場。同級は5選手によるリーグ戦方式で行われ、全勝で見事優勝を果たした。

平口は「自分の形でしっかり得意技を出すことができた。自分としてはこの階級で優勝することは当たり前だと思っているのでうれしさもあるが、安心している気持ちが一番大きい」と安堵の表情を浮かべた。今後について、「すごいなと思えるような相撲を見せ、次の大会でもしっかりと優勝したい」と将来を見据えた。

また、一般の部無差別級に河本優心（経済2・鳥取城北高）と平口が出場し、両者ともベスト8となった。

河本は「自分らしい相撲をとることができたが、大事なところで勝てなかったことが悔しい。今後は勝利だけでなく、楽しむことにもこだわっていきたい」と語った。

（作田夏楓・文2）

大学日本一

男子エペ

大学日本一に輝いた男子エペチーム。下村、熊谷、前畑順一監督、泉、田内（左から）

全日本学生フェンシング王座決定戦＝6月14日、世田谷区・駒沢屋内球技場

関東・関西の学生リーグ戦上位2校が日本一の座をかけて争う今大会。関東1位の男子エペチームが出場し、初戦で関西大に快勝。勢いそのままに決勝で立教大を45―41で破り、優勝に輝いた。

熊谷は「対応力不足から流れを断ち切ることができず、自分のペースで試合を進められなかった。試合に勝つことはできたが、内容には納得できず、問題が明確になった」と反省を口にした。

下村は「勝利がかかった大事な場面で回ってくることが多く、不安を感じることもあったが勝ち切ることができ、優勝に貢献することができてよかった。今後の団体戦でも安心して任せてもらえるような選手になりたい」と話した。

（岸垣哲平・文1）

出場メンバー

熊谷 志孔	商3・北陸高
田内　渓	商3・大垣南高
泉　怜邑	文3・岩国工業高
下村 祐翔	人間科学3・岩国工業高

準優勝 総理大臣杯の出場獲得

アミノバイタルカップ決勝＝6月28日、北区・味の素フィールド西が丘

攻守にわたって存在感を発揮した志村
撮影＝藤林利英（文3）

サッカー部がアミノバイタルカップ（関東大学サッカートーナメント大会兼総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント関東予選）で快進撃を見せた。決勝で法大に敗れたものの準優勝。今大会の結果、2018年以来となる総理大臣杯の出場を決めた。

10日間で5試合が行われる短期決戦で、2部リーグ所属の専大が1部リーグ所属のチームを相手に3度の下克上を起こし、大会最大のサプライズとなった。

準々決勝から8人の先発メンバーを入れ替えた準決勝では、1部リーグ首位の国士舘大をPK戦の末に破る大金星を挙げた。

主将の志村ぼん（経済4・韮崎高）は「チームとして積み重ねてきたものを一発勝負の舞台で発揮できた。この結果に満足せず、リーグ戦での1部復帰と総理大臣杯での優勝に向けて、全員で一丸となって練習に取り組みたい」と決意を新たにした。

（佐藤佑樹・経済3）

ズームアップ！ ZOOM UP

ボクシング部

ITOI ROMIO

糸井 芦澪（文1・伊勢崎工業高）

聖地・後楽園で躍動 2部復帰へ勝利誓う

期待のルーキーが日本ボクシングの聖地・後楽園ホールのリングで躍動した。糸井芦澪は高校時代、群馬県代表としてインターハイに2年連続で出場した実力者だ。6月27日に行われた関東大学ボクシングトーナメント3部ではバンタム級で優勝。専大の3部優勝に大きく貢献した。

「とにかく緊張した」と決勝を振り返った糸井。1、2ラウンドはポイントを取られたと思い、3ラウンド目に勝負をかけた。ゴング直後から激しい打ち合いを展開。互いのパンチが決まる度に大きな歓声が上がり、会場を熱狂させた。判定の結果、審判が上げたのは糸井の左拳。聖地でのデビュー戦を勝利で飾った一方、「もっとリラックスして試合に臨むのと、ディフェンスを意識したボクシングをしていきたい」と、更なる飛躍を誓った。

次戦は2部復帰のためにも負けられない入れ替え戦（7月25日）。「自分の力で2部に上げるという気持ちで臨み、絶対に勝つ」と意気込む。専大を上位へ導くため、糸井は明日も必死に拳を振るう。

（宇佐美穣・文3＝写真も）

2部残留 秋季に期待

東都大学野球春季リーグ戦・入れ替え戦＝6月23～26日、新宿区・明治神宮野球場

初戦で完投勝利を挙げた梅澤　撮影＝門前咲良（文4）

2部リーグを制した専大は、9年ぶりの1部復帰を目指して1部6位の東洋大と対決した。初戦は梅澤翔大（経営2・専大松戸高）の9回1失点、10奪三振の力投で9―1で快勝。しかし、続く2試合を落とし、2部残留となった。

主将の工藤翔斗（経営4・大阪桐蔭高）は「1部との差を受け止めて、プレーの精度を見直していきたい」と成長を誓った。

入れ替え戦の3試合は平日にもかかわらず、多くの関係者が応援に駆け付けた。梅澤は「たくさんの人の応援が自分の力になった」と、感謝を述べた。

（知地泰雅・文4）